

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000409		
法人名	有限会社中部介護事業所		
事業所名	中部介護アウト・オン・ア・リム		
所在地	愛知県愛知郡東郷町和合牛廻間1-107		
自己評価作成日	2023年2月9日	評価結果市町村受理日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy-osvoCd=2375000409-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和5年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたの笑顔 わたしの笑顔 大切に」という理念に基づいて、介護現場が入居者の日常ケアに努めていること。
 また、運営方針に終末期ケアも導入していることにより、本人や家族側の意向に寄り添った個別ケアを常時目指している(パーソン・センタード・ケアの実現)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	昨今の感染症防止対策と併せながらになるが、ホールに掲げた「理念」を働く職員が共有しながら介護ケアに努めている。入居者に接するときも笑顔と傾聴を心がけた介護ケアの実践をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルス感染状況により、多人数が密集する場所へは参加しなかったが、散歩などの外出で近所の方々との交流は変わらず継続をしていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	昨年度と同様に、当ホームへの入所希望の問い合わせや見学(訪問できる時期は制限していた)を受けた際には面談の機会を設けて、家族側の介護相談にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルスの感染防止対策により、運営推進会議の開催は感染状況に左右されている。令和4年度は入所状況や入居者の概要をファックスにて情報提供をする対応が主となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホームの入所状況を主体に役場関係者へ報告・相談を行い、説明・理解のうえで日頃から協力関係が成り立つよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	やむを得ずベッド柵を使用されている入居者の方々へは、家族側へ使用の目的と理解を同意して頂いたうえで実施している。また、定期検討会を実施しながら、状態に応じた使用の軽減に向けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	感染予防のために集合しての社内勉強会は控えていたが、現場職員へは認知症の方の理解と接し方を心がけてもらえるように、介護虐待防止を挙げた勉強会資料を配布していた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年と同様に、今年も権利擁護に係わるテーマは社内勉強会という形で採り上げて、資料を配布した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には過去にあった疑問点などを予め説明し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者が定期的に入居者の家族へ近況を報告して家族側の意向意思を確認している。家族側から意見や助力を頂いているのみならず、何か要望があった場合も誠意対応に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	感染予防対策のために職員ミーティングの開催できていなかったが、介護現場で働く職員には当事業所の運営方針や以後の変更点については通知や説明を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人員体制と実情の状況を把握し、実務内容との負担がないかを考え、採用や勤務時間等の考慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	この業界のやりがいを感じていくためには、利用者のケアにどのような目標を持って行くのか各々が考え実施できるような指導、実践を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ渦において、同業他社との交流は延期の状況が続いているが、代表者同士の情報共有から、参考となることは職場に展開している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者の要望や悩みなどがあった場合は、その気持ちを理解して共感しながらのケアに取り組んでいる。実現にも努めているが、状況次第では御家族側の協力も得られる体制も構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族への定期的な近況報告(本人の要望や心身の状態変化)や、介護計画書に記載したサービス内容を説明して意見・相談している。また、家族側の要望や意見も採り入れたケアを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護計画作成担当者が定期で介護現場と医療関係者との検討会を開き、入居者のケア方針を決めるように図られている。また、本人や家族側からも個人情報を得られるように、積極的に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は日常生活上で各入居者の方が「できる事、やりたい事」を本人と一緒に考えていくことを心がけている。主に職員の手伝いや、入居者個人の役割づくりという形で共同生活の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	昨年と同じく感染防止対策の強化のために、家族側の面会は制限をかける形となっていた。但し、月々の経過報告や入居者と電話で通話するなど、家族の繋がりを保てるように支援をしていた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族以外の外部関係者には現在も接触の機会は控えてもらっているが、紙面や電話等での伝達方法を活用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	医療依存・認知症レベルの差異から、日常的に接点の薄い入居者どうしもしらっやられるが、出来得る限りで共有の場所(感染予防対策して)と時間で過ごしていただけるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された入居者のご家族へは、再び意見や相談等があれば、気軽にお越し頂けるように呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は日常的に入居者に寄り添いながら、個人の意思や希望を理解するように努めている。また、施設側で判断が難しい場合には家族側に相談して、状況によっては助力も頂けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ホームでの生活が本人にとって馴染みやすく、より落ち着いた環境で過ごして頂けるように心がけている。また、本人や家族からの意見や要望も定期的に確認して生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現場職員は日常生活上での介護ケアや自立支援とともに、医療面の状態変化にも医療関係者と連携を取りながら情報共有と対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の介護ケアで職員が気づいたことを申し送りできる「連絡帳」を配置している。介護計画書の作成にあたっては、計画担当者が職員の意見を反映させてうえで家族側にも説明と了承を頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護・医療ケアに従事するなかで、入居者本人に変化が見られた場合は職員間の情報共有として経過記録の記述のみならず、業務用・医療用の各連絡ノートも活用して実践の反映に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	各入所者の意見や要望にはその都度で臨機応変に対応してきたが、今年も家族側に対しては感染防止対策として電話を主体にして、情報交換をしながら相手の意向を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年も新型コロナウイルスの影響により毎月の行事活動や外出支援の機会は少なかった。そのため、ホーム内での生活のなかでは「自分の出来ること」を活かせるように支援に努めていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医による月2回の往診のみならず、入居者の状態変化に応じて職員が医療関係者に報告・相談。状態によっては受診に立ち会いながら、適応した医療を受けられるように取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在は現場看護師を採用していないため、入居者の状態変化は訪問看護ステーションへ早期に報告をして意見や指示を仰げる体制を重視している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の期間には、経過状態の確認のために医療機関へと赴いて担当医師より情報を得ている。入居者の主治医や訪問ステーションへも経過状態を伝えて、医療ケアの情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期を迎えられる入居者に対しては、家族や医療関係者と話し合いをしながら今後の方針について決めていく。特に家族側へは、本人の状態変化に応じて意向確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者の急変に応じた緊急マニュアルを常に掲示している。但し、現在は人員配備に変動が多いために、医療ケアに関わる処置の予備知識・技術は職員に浸透していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害を想定した避難訓練や消火訓練を毎年実施して、緊急時でも入居者や利用者が迅速かつ安全に避難できるように訓練している。また、地域との相互救助や非常時の備蓄確保にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	昨年と変わらず、入居者の視点や立場になって個人の尊重を遵守する「パーソン・センタード・ケア」を心がけている。介護・医療ケアの際も、入居者および職員間でも話し方に配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	要望や相談を受けたときには、会話を交えながら寄り添うように努めている。自己決定が難しい入居者に対しては、日常的な動作や表情から変化を読み取れるような接し方を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活の中で、入居者個々の過ごし方や時間の流れに配慮をしている。また、要望や悩みについては傾聴しながら一緒に解消できるようにも努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時の整髪・洗顔の声かけから、日常的な爪切りや季節に応じた衣類の着用などにも配慮をしている。また家族側へも相談をしながら、本人が穏やかに生活できるように必要な物を持参して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の時間帯に音楽やテレビ番組を流しており、穏やかに食事を楽しめる環境を作っている。感染予防対策もしながら、出来得る範囲で入居者の方にも配膳の準備を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士(月1回訪問)より食事内容の指導を受けており、栄養管理を徹底している。また、月ごとに体重測定も実施しており、食事摂取量の記録も実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員は各入居者に口腔ケアを呼びかけていき、口腔内の清潔保持および介助することで肺炎予防にも努めている。また、一部の入居者は訪問歯科を利用して、専門医からも助言を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	日中のトイレ誘導や排泄介助では、自身で可能な範囲までは自立を促している。夜間等も排泄のパターンも把握しながらケアに取り組んでいる。また、毎日の排泄状況もチェック表への記録を徹底している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	各入居者の排泄状況を常に記録していき、状況に伴う体調の変化に配慮している。また、排泄コントロールの困難な方は主治医や訪問看護師へ相談。指示や処方薬の協力を得ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴前に体調チェックを行い、心身共に異常はないかを把握して安全・安心で入浴して頂いている。入浴者の曜日や時間帯は業務上で取り決めてあるが、状況に合わせて臨機応変に支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常生活で睡眠状態も把握しながら、必要であれば居室での小休息も勤めている。また毎週で各入所者の布団類の洗濯や交換を行っており、快適に睡眠をとって頂けるように配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者個々に作成している個人票に服薬の内容を明記して、薬の効果を確認できるよう徹底している。また、本人の状態に応じて主治医や調剤薬局に相談をして処方薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	令和4年度も感染予防対策のため、入居者個々に対してレクリエーションや役割づくりを設ける方法を採り入れていた。現在も外部（ボランティアなど）の訪問は中止としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの感染状況により、受診や散歩等の支援以外では外出できる機会が限られていた。但し、家族と一緒に外出（自宅など数名のみが集まる場所）は可能としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部の入居者が要望によって金銭を所持しているが、普段は紛失防止のため金銭は家族側の了解を得て事務室で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年の家族に宛てる年賀状とは別に、本人用に携帯電話を用意している家族もおり、常時で通話可能であるように配慮してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室やホール内は、季節に応じた室温管理をしている。特に共同スペースになるホール内は、落ち着いて過ごせるように照明・音響・壁面の飾り物(季節ごとに)などにも配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルや椅子などは、入所者がお互いが話しやすいように配置をしている。車椅子介助者も共同ホールをできるように調度類の配置を変更して、自立歩行者の通路の障害にならないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族への相談や協力を得て、本人が馴染みのある物や思い出の品を身近に置くことにより、心身が安心できる室内環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員の声かけ誘導や移動介助のみならず、入居者が場所を自分で認識できるように表札を壁に取り付けている。通路には遮蔽物を配置しないように心がけ、常に安心して移動できる環境を設けている。		